

環境事業団ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会議事要旨

1 開催日時 平成13年11月20日(金) 9:30~12:00

2 開催場所 虎ノ門パストラル 松の間

3 出席者

永田委員長、岡田委員、酒井委員、田辺委員、細見委員、益永委員、宮田委員、森田委員、若松委員、垣迫特別委員

4 議 題

非公開

(1) 北九州事業に係る検討委員会報告書について

公開

(2) 北九州事業の環境安全施策について

5 概 要

(1) 北九州事業に係る検討委員会報告書について

- ・ 事務局より、前回のヒアリング結果について説明するとともに、これまでの検討結果を踏まえた検討委員会報告書案「北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業の処理方式について」を説明。
- ・ 同報告書案のとりまとめについて審議を行い、基本的に内容を了解し、報告書の文章上の整理を行った上で速やかに公開することを了解。また、報告書の最終的なとりまとめ及び公表の方法は、委員長に一任することを了解。
- ・ 同報告書案については、基本的に内容の了解が得られたので、本日後半の公開の委員会において、オブザーバー及び傍聴者に配布することを了解。

(2) 北九州事業の環境安全施策について

事務局より資料に基づき説明。主な意見は次のとおり。

- ・ 今後は、施設の設計段階から運転段階へと、一步一步データを積み上げていく段階的な取組が重要。

- ・ オンサイトでの迅速分析技術が進んできており、このような技術とモニタリングの頻度を最適化することにより、施設の安全確認ができる。最新の技術レビューを継続していくことが重要。処理の完了確認のための迅速分析についても十分レビューの上、試運転期間に公定法との相関を十分確認すること。
- ・ 作業者の安全の観点からは、迅速な暴露評価のできる分析方法が必要。多くの成分を持つ物質の分析では、その過半を占める物質を押さえれば、分析法は簡易にできる。
- ・ 処理対象物の入口の情報が案外少なく、入口での性状は測定がむずかしい。クリーンアップ技術も含めて検討が必要。
- ・ 全体としての環境負荷を抑制することが重要。排出に伴う環境への影響は、濃度だけではなく、排出量をしっかり抑えることが必要。排気の基準として、PCBだけではなく、ダイオキシン類も意識する必要がある。
- ・ 処理施設が環境汚染をしていないことを確認することが重要で、大気、水もさることながら、生物についてもモニタリングが必要。環境モニタリングの測定頻度は、特に最初の段階では少し増やしてほしい。
- ・ 北九州市としての環境モニタリングも実施するが、施設におけるモニタリングはこれとの整合にも留意してほしい。
- ・ 定期的な対象物質そのものの測定だけではなく、施設における常時監視をどうするかを十分考慮すること。PCBだけではなく、溶剤その他の物質についての安全対策も重要。
- ・ 処理施設で起こり得るリスクを明らかにするとともに、その際の対応を具体的に整理しておいてほしい。
- ・ 全体の環境負荷を削減する事業であり、処理施設でどれだけの負荷を下げているかを明示することが必要。PCBは火災による危険性が重大であり、保管を続けることによるリスクを分かりやすく説明できるようにしておくことが重要。

6 今後の予定

次回は、北九州事業の環境安全施策について引き続き検討を行うこととし、公開により開催する旨確認。なお、次回の委員会は、次のとおり。

・ 12 / 11 (火) 9:30 ~ 13:00 場所未定

7 問い合わせ先

環境事業団 環境保全・廃棄物事業部 処理技術室

03-5251-1038